

1 学校教育目標 自ら考え行動し いきいきと学ぶ児童の育成	2 本年度の重点目標 ① 学力向上の推進(知) ② 心を耕す教育の推進(徳) ③ 健康安全教育の推進(体)
3 前年度の成果と課題 前年度、危機管理体制の整備として、原子力防災に係る保護者引き渡し訓練を実施することができた。また、危険個所に飛び出しキッズを設置したり、交通指導に毎朝立つ場所を増やしたりと事故防止に努めることができた。課題として、人権同和教育推進のために校内体制を整えたり、児童・保護者・職員の人権意識を高めたりする取組が必要である。	4 今年度の重点取組 ○楽しい授業 ○あいさつ日本一 ○自問清掃

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む



5 目標・評価				
①学力向上の推進(知)				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・「鏡山話」を教材とした郷土学習に取り組む。	・郷土について学ぶ体験活動等をカリキュラムの中に位置づけ、系統を明らかにする。
	●学力の向上	・学習内容の定着	・児童の知識、技能の定着と思考力の向上を図り、12月調査の結果が県平均正答率を上回ることを目指す。	・1単位時間の学習過程の授業スタイルを確立して全校で共有化する。 ・知識の獲得ができるような掲示物等の工夫を行う。 ・家庭学習の充実を図るために、「家庭学習の手引き」を配布し、PTAと連携しながら啓発していく。
		・学習規律の確立	「時間を守る」 「話を聞く」 「宿題に取り組む」 ・上記3点を児童に意識させ、達成率85%以上を目指す。	・「鏡山小 学習のきまり」をつくり、ルールの確立を図る。
②心を耕す教育の推進(徳)				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●心の教育	・人権意識をもった児童の育成	・学期に1回、低中高学年別の人権教室を実施する。 ・特別の教科「道徳」の充実を図る。	・人権教室や道徳の内容や児童の変容を学校だよりや学年通信で家庭に発信する。
	●いじめ問題への対応	・いじめを許さない集団づくり ・いじめの早期発見・早期解決	・学級が楽しいと感じる児童を90%以上にする。 ・Q-Uにおける学校生活満足群を前年度よりも増やす。	・構成的エンカウンターやソーシャルスキルトレーニングなどを取り入れた授業実践を重ねる。 ・児童の様子に目を配り、気になることは「校内いじめ防止対策委員会」を開き、組織的に対応していく。
	○予防的、開発的指導	・基本的生活習慣の実態把握と改善指導	生活目標のうち「あいさつ」「時間」「自問清掃」を守れたと答える児童85%以上を目指す。	・委員会活動や代表委員会を通して、児童による啓発を行う。 ・生徒指導協議会で児童の実態を把握し、問題行動には全職員が共通理解をもって早期対応する。
	○特別支援教育の充実	・特別支援教育への理解推進・支援体制の確立	・困り感のある児童に対する関係者の理解をすすめ、適切な支援及びその体制を整える。	・特別支援担当が学級担任や生活支援員と密に情報交換を行い、児童の状況を適切につかみ、具体的な手立てをもって支援する。 ・保護者向けの通信を特別支援部より年6回程度発行し理解を図る。 ・児童理解研修会等を年3回実施する。
③健康安全教育の推進(体)				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体力づくり	・食育の充実 ・健康教育の充実	・朝食の摂取率が前年度を上回る。 ・限られたスペースで体力づくりができる縄跳び等を推奨する。	・学年に応じた食に関する指導を充実させる。 ・家庭との連携の中で、「おにぎり弁当」を実施する。 ・運動場の使用が制限されることに伴い、外遊びの工夫を啓発する。
学校運営	○危機管理体制の整備	・児童・職員の危機管理意識の向上	・校外での交通、生活事故を前年度よりも減少させる。	・危機管理研修や安全訓練を通し、避難計画を見直したり安全配慮意識を向上させたりする。 ・交通事故が多発する箇所については、下校指導や交通安全教室において児童に指導するとともに保護者への呼び掛けを行う。
☆幼保小中の連携 ☆地域・保護者連携の強化と開かれた学校づくり				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○地域・保護者連携の強化	・家庭教育力の向上	・宿題の提出率を前年度より上げる。 ・「家庭の日」実施率60%以上を目指す。	・毎月1日を「家庭の日」とし、1時間テレビ、ゲーム、スマホ等を消し、家庭団らんの日を設けるなど、学校と家庭が連携をして教育活動に取り組んでいく。
		・開かれた学校づくり	・保護者の本校の重点目標周知を80%以上にする。 ・地域の行事に参加する児童を前年度より増やす。	・「人材活用表」を更新し、学校行事や各学年の学習指導などに積極的に生かしていく。 ・PTA活動のよさを学校新聞やPTA総会、ホームページ等を通じて発信する。 ・地域行事をホームページや懇談会などで紹介し、児童と保護者に参加を呼び掛ける。
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務効率化の推進	・時間外勤務時間が一月あたり40時間以内の職員数を80%以上にする。	・会議1時間以内を実行する。 ・学校行事を見直し、組み合わせられるもの、縮小できるもの、削減できるものなど全職員で考えていく。 ・業務記録を有効活用し、月毎の時間外勤務の目標時間を設定し、意識を高めていく。
		・教職員の連携促進	・学年グループや部会組織での協働意識を高め、学校課題や取組の共通理解ができるようにする。	・級外を含む学年経営を充実させる。 ・大規模校を効率的に運営していくための学年主任の役割は大きいことから、空き時間の確保とともに学年主任会を月に1回開催する。